



call application voice through call denial

- call application voice (3 ページ)
- call application voice access-method (8 ページ)
- call application voice account-id-method (11 ページ)
- 通話アプリケーションの音声認証を有効にする (14 ページ)
- call application voice accounting-list (16 ページ)
- call application voice accounting-template (18 ページ)
- call application voice authen-list (21 ページ)
- call application voice authen-method (23 ページ)
- call application voice accounting enable (25 ページ)
- call application voice default disc-prog-ind-at-connect (27 ページ)
- call application voice dsn-script (29 ページ)
- call application voice event-log (31 ページ)
- call application voice fax-dtmf (34 ページ)
- call application voice global-password (37 ページ)
- call application voice language (39 ページ)
- call application voice load (44 ページ)
- 通話 アプリケーション 音声 メールスクリプト (46 ページ)
- call application voice mode (48 ページ)
- call application voice pin-len (51 ページ)
- call application voice prompt (55 ページ)
- call application voice redirect-number (58 ページ)
- call application voice retry-count (62 ページ)
- call application voice security trusted (66 ページ)
- call application voice set-location (69 ページ)
- call application voice transfer mode (74 ページ)
- call application voice transfer reroute-mode (77 ページ)
- call application voice uid-length (80 ページ)
- call application voice voice-dtmf (84 ページ)
- call application voice warning-time (87 ページ)
- call-block (ダイヤルピア) (91 ページ)

- [通話拒否 \(94 ページ\)](#)

call application voice



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoice** コマンドは、次の表に示すコマンドに置き換えられました。詳細については、これらのコマンドを参照してください。

音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーション用にロードするツールコマンド言語 (Tcl) または VoiceXML ドキュメントの場所を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoice** コマンドを使用します。定義されたアプリケーションとそれに関連付けられたすべての設定済みパラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 {位置av-ペア}
nocallapplication 音声アプリケーション名

構文の説明

アプリケーション名	音声アプリケーションの名前を定義する文字列。
位置	URL 形式の Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントの場所。有効な保存場所は、TFTP、FTP、HTTP、フラッシュ メモリです。
av-ペア	Tcl スクリプトによって指定され、RADIUS サーバによって理解される属性値 (AV) ペアを定義するテキスト文字列。複数の AV ペアを引用符で囲むことができ、最大 512 個のエントリがサポートされます。

コマンド デフォルト

None

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XH	このコマンドが導入されました。
12.0(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(7)T に統合されました。 <i>location</i> 引数が追加されました。
12.1(3)T	AV ペア用に <i>av-pair</i> 引数が追加されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 上の VoiceXML アプリケーションと HTTP サーバの場所をサポートするように変更されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco 1750 に実装されました。
12.2(4)XM	このコマンドは Cisco 1751 に実装されました。他の Cisco プラットフォームのサポートはこのリリースには含まれていません。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、Cisco 3745、および Cisco 7200 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは、VoiceXML アプリケーション用に実装されました。このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.2(15)T	<i>av-pair</i> 引数に MCID AV ペアが追加されました。これらは、 <i>mcid-dtmf</i> 、 <i>mcid-release-timer</i> 、および <i>mcid-retry-limit</i> です。
12.3(8)T	1 つのコマンドで最大 512 個の AV ペア（引用符で囲む）を使用できるようにサポートが追加されました。
12.3(14)T	このコマンドは置き換えられました。 callapplicationvoice コマンドは、以下の表に示すコマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン **callapplicationvoice** コマンドは、以下の表に示すコマンドに置き換えられました。

表 1: *call application voice* コマンドの置き換え

コマンド	コマンドモード	目的
アプリケーション	グローバル構成	音声アプリケーションとサービスを構成するために、アプリケーション構成モードに入ります。
サービス	アプリケーション設定	デビットカードスクリプトなどのスタンドアロンアプリケーションを構成するために、サービス構成モードに入ります。

コマンド	コマンドモード	目的
パッケージ	アプリケーション設定	パッケージをロードして構成するために使用します。パッケージは、アプリケーションまたは他のパッケージによって呼び出される機能を提供する、リンク可能な C または Tcl 関数のセットです。
パラメータ	アプリケーションのパラメータ設定	サービスまたはパッケージのパラメータを構成するために使用します。

このコマンドは、対話型音声応答 (IVR) または IVR 関連機能 (デビットカードなど) のいずれかを設定するときに使用して、アプリケーションの名前を定義し、アプリケーションに関連付けられた Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントの場所を識別します。

ダイヤルピアで **application** コマンドを使用してアプリケーションを設定する前に、このコマンドを使用して音声アプリケーションを設定する必要があります。

Tcl スクリプトおよび VoiceXML ドキュメントは、TFTP、FTP、または HTTP サーバ、ゲートウェイのフラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスクのいずれかの場所に保存できます。使用されるオーディオファイルは、これらのいずれかの場所、およびリアルタイムストリーミングプロトコル (RTSP) サーバに保存できます。

HTTP は、Web 経由で情報を読み込むための効率的な設計のため、アプリケーションや音声プロンプトを読み込むための推奨プロトコルです。たとえば、ファイルをキャッシュできる期間や、キャッシュされたファイルがまだ有効かどうかを判断するメソッドがあります。

アプリケーションで使用されるドキュメントを指定するときは、ファイル名にファイルタイプ拡張子 (.vxml または .tcl) を含めます。Tcl ファイルには拡張子 .tcl が必要であり、VoiceXML ドキュメントには .vxml が必要です。



- (注) **nocallapplicationvoice** コマンドは、関連するすべての呼び出しアプリケーション コマンド (**callapplicationvoicelanguage** および **callapplicationvoiceset-location** など) を削除します。**nocallapplicationvoiceapplication-name** コマンドは、アプリケーション全体と、設定されているすべてのパラメータを削除します。

例

Cisco IOS リリース 12.3(14)T では、ユーザに代替コマンド オプションを指示するために次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
  application
  service
  package
param
```

次の例では、ファックスリレーアプリケーションと、関連する Tcl スクリプトの TFTP サーバの場所を定義します。

```
call application voice fax-relay tftp://keyer/faxrelay.tcl
```

次の例では、アプリケーション「prepaid」と、関連する Tcl スクリプトの TFTP サーバの場所を定義します。

```
call application voice prepaid tftp://keyer/debitcard.tcl
```

以下は AV ペアの構成例です。

```
set avsend(h323-ivr-out,1) "payphone:true"
set avsend(323-ivr-out,1) "creditTime:3400"
```

AV ペア (前の例のように配列が定義された後) は、次のように認証、認可、アカウントリング (AAA) の `authenticate` または `AAA authorize` 動詞を使用してサーバに送信する必要があります。

```
aaa authenticate $account $password $avsend
```

スクリプトは、標準のベンダー固有属性 (VSA) では表すことができない情報を RADIUS サーバに伝える必要があるときはいつでも、この AV ペアを使用します。

次の例は、VoiceXML アプリケーション「vapptest1」と、関連する VoiceXML ドキュメント「demo0.vxml」のフラッシュメモリの場所を定義する方法を示しています。

```
call application voice vapptest1 flash:demo0.vxml
```

次の例では、MCID アプリケーション名、関連付けられた Tcl スクリプトの TFTP サーバの場所、および MCID アプリケーションに関連付けられた AV ペアを指定します。

```
call application voice mcid tftp://keyer/app_mcid.2.0.0.40.tcl
call application voice mcid mcid-dtmf #99
call application voice mcid-retry-limit 3
call application voice mcid mcid-release-timer 90
```

関連コマンド

コマンド	説明
application (ダイヤルピア)	ダイヤルピア内の呼び出しアプリケーションを定義します。
application (グローバル設定)	アプリケーションを構成するためにアプリケーション構成モードに入ります。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントを再ロードします。
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。

コマンド	説明
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話がリダイレクトされる電話番号を定義します。
call applicationvoicere retry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoicesecuritytrusted	ANI がブロックされないように、VoiceXML アプリケーションのセキュリティ レベルを信頼済みに設定します。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
パッケージ	パッケージの読み込みと設定を行うために、アプリケーションパラメータ設定モードを開始します。
パラメータ	ゲートウェイ上のパッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータをロードして設定します。
サービス	ダイヤルピア上の特定のスタンドアロン アプリケーションをロードして設定します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application voice access-method



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードで **callapplicationvoiceaccess-method** コマンドが **paramaccess-method** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramaccess-method** コマンドを参照してください。

指定されたアプリケーションの2段階ダイヤリングのアクセス方法を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoiceaccess-method** コマンドを使用します。このコマンドの値をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名アクセス方法 {prompt-user | redialer}
nocallapplication 音声アプリケーション名アクセス方法

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
ユーザプロンプト	着信POTSダイヤルピアにDIDが設定されていないことを指定し、そして、着信POTSダイヤルピアのTelスクリプトが2段階ダイヤリングに使用されることを指定します。
リダイヤル	着信POTSダイヤルピアにDIDが設定されていないことを指定し、そして、リダイヤルデバイスが2段階ダイヤリングに使用されることを指定します。

コマンド デフォルト

ユーザへのプロンプト (DID がダイヤルピアで設定されていない場合)

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは paramaccess-method コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン POTS ダイアルピアで DID が無効になっている場合、**callapplicationvoiceaccess-method** コマンドを使用して 2 ステージダイヤリングのアクセス方法を指定します。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice access-method
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param access-method
```

次の例では、app_libretto_onramp9 IVR アプリケーションの 2 ステージダイヤリングのアクセス方法として、prompt-user を指定しています。

```
call application voice app_libretto_onramp9 access-method prompt-user
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	指定されたアプリケーションを TFTP サーバからルーターにロードし、ルーター上で認識されるアプリケーション名を付けます。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
通話アプリケーション音声ピン長さ	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
通話アプリケーション音声リダイレクト番号	指定のアプリケーションに対して、転送先の電話番号 (例えば、サービスプロバイダのオペレータ電話番号) を定義します。
通話アプリケーション音声再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
通話アプリケーション音声設定場所	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuidlen	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarningtime	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。

コマンド	説明
パラメータアクセスメソッド	指定アプリケーションの2ステージダイヤルのアクセス方法を指定します。

call application voice account-id-method



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoiceaccount-id-method** コマンドは **paramaccount-id-method** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramaccount-id-method** コマンドを参照してください。

特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるようにファックス検出 IVR アプリケーションを設定するには、グローバル設定モードで **callapplicationvoiceaccountidmethod** コマンドを使用します。このアカウント識別子の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名アカウント ID メソッド {none | ani | dnis | gateway}
nocallapplication 音声アプリケーション名アカウント ID メソッド

構文の説明

アプリケーション名	定義されたファックス検出 IVR アプリケーションの名前。
なし	アカウント識別子が空です。これはデフォルトです。
ani	アカウント識別子は発信側の電話番号です (自動番号識別 (ANI))。
dnis	アカウント識別子は、ダイヤルされた側の電話番号です (ダイヤル番号識別サービス、または DNIS)。
ゲートウェイ	アカウント識別子は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前で、次の形式で表示されます: router-name.domain-name。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco AS5300 用に導入されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5400 および Cisco AS5350 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に実装されました。

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは paramaccount-id-method コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

オンラインアプリケーションがファックスを電子メールに変換するとき、電子メールには x-account-id と呼ばれるフィールドが含まれます。これは、会計または認証に使用できます。x-account-id フィールドには、このコマンドの結果として提供される情報を含むことができます。例えば、発信側の電話番号 (発信者番号)、着信側の電話番号 (着信者番号)、またはゲートウェイ (gateway) の名前を指定します。

このコマンドは、Cisco IOS ヘルプではサポートされていません。

thecallapplicationvoicefax_detectaccount-id-method コマンドおよび疑問符 (?) を入力しても、Cisco IOS ヘルプでは疑問符の代わりに有効なエントリのリストは提供されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application fax_detect account-id-method gateway
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param account-id-method
```

次の例では、ファックス検出 IVR アプリケーションのアカウント識別子を、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前に設定しています。

```
call application voice fax_detect account-id-method gateway
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	指定された IVR アプリケーションを TFTP サーバからルーターにロードし、ルーター上で認識されるアプリケーション名を付けます。
callapplicationvoicefaxdtmf	デフォルトの音声モードとデフォルトのファックスモードでファックス呼び出しを示す指定された数字を認識するように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
callapplicationvoicemode	ファックス検出 IVR アプリケーションを 4 つのモードのいずれかで動作するように構成します。
callapplicationvoiceprompt	ファックス検出 IVR アプリケーションを構成して、指定されたオーディオファイルを、聞き取り優先モード、デフォルトの音声モード、またはデフォルトのファックスモードでユーザプロンプトとして使用します。

コマンド	説明
callapplicationvoicevoicedtmf	デフォルトの音声モードとデフォルトのファックスモードで音声通話を示す指定された数字を認識するように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。

通話アプリケーションの音声認証を有効にする



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードでは、**callapplicationvoiceauthenticationenable** コマンドが **paramauthenticationenable** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramauthenticationenable** コマンドを参照してください。

Tool Command Language (TCL) アプリケーションの認証、許可、アカウントिंग (AAA) サービスを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceauthenticationenable** コマンドを使用します。TCL アプリケーションの認証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名認証enable
nocallapplication 音声アプリケーション名認証enable

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
-----------	--------------

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは paramauthenticationenable コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、AAA 認証方式リストが **aaaauthentication** コマンドと **callapplicationvoiceauthen-list** コマンドの両方を使用して定義されている場合に、TCL アプリケーションの AAA 認証サービスを有効にします。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice authentication enable
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param authentication enable
```

次の例では、AAA 認証方式リスト(「sample」と呼ばれる)を、送信ストアアンドフォワード FAX で使用できるようにします。

```
call application voice app_eaample_onramp9 authen-list sample
call application voice app_example_onramp9 authentication enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaauthentication	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
callapplicationvoiceauthen-list	TCL アプリケーションの認証方法リストの名前を指定します。
通話アプリケーション音声認証方法	TCL アプリケーションの認証方法を指定します。

call application voice accounting-list



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードでは、**callapplicationvoiceaccounting-list** コマンドが **paramaccounting-list** に置き換えられました。詳細については、**paramaccounting-list** コマンドを参照してください。

音声機能カード (VFC) 上のストアアンドフォワード FAX による認証、認可、アカウントिंग (AAA) に使用するアカウントング方式リストの名前を定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceaccountinglist** コマンドを使用します。アカウントング方式リストの定義を解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **accounting-listmethod-list-name**
nocallapplication 音声アプリケーション名 **accounting-listmethod-list-name**

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
メソッドリスト名	ストアアンドフォワードファックスと共に使用される会計方法のリストの名前付けに使用される文字列。

コマンド デフォルト

AAA 会計方式リストが定義されていません

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは、パラメータ accounting-list に置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、FAXのストアアンドフォワードで使用されるAAA会計方式リストの名前を定義します。ストアアンドフォワードFAXに提供されるアカウントリングサービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、**aaaaccounting** コマンドを使用して定義されます。標準のAAA (各定義済みの方式リストが特定のインターフェイスおよび回線に適用できる) とは異なり、ファックスの蓄積転送で使用されるAAA会計方式リストはグローバルに適用されます。

アカウントリング方式リストを定義した後、**mmpipaaareceive-accountingenable** コマンドを使用してそれらを有効にします。

このコマンドは、VFCのオンランプおよびオフランプのストアアンドフォワードのファックス機能の両方に適用されます。このコマンドはモデムカードでは使用されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice accounting-list
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param accounting-list
```

次の例では、ストアアンドフォワードFAXで使用されるAAAアカウントリング方式リスト「**example**」を定義します。

```
aaa new-model
call application voice app_libretto_onramp9 accounting-list example
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
callapplicationvoiceaccountingenable	TCL アプリケーションの AAA 会計を有効にします。
mmpipaaareceive-accountingenable	オンランプ AAA アカウントリング サービスを有効にします。

call application voice accounting-template



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoiceaccounting-template** コマンドは廃止されました。音声アカウントリング テンプレートを設定するには、アプリケーション コンフィギュレーション モードで **callaccounting-template** コマンドを使用します。

VoIP 認証、認可、アカウントリング (AAA) 非ブロッキング アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) を使用して T.37 fax アカウントリングを設定するには、グローバル設定モードで **callapplicationvoiceaccountingtemplate** コマンドを使用します。定義されたアプリケーションとそれに関連付けられたすべての設定済みパラメータを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **accounting-template** テンプレート名
nocallapplication 音声アプリケーション名 会計テンプレートテンプレート名

構文の説明

アプリケーション名	T.37 音声アプリケーションの名前を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • callapplicationvoice コマンドを使用して、音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーション用にロードするツールコマンド言語 (Tcl) または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
テンプレート-名前	テンプレートの名前を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> • テンプレート名を定義するには、callaccounting-templatevoice コマンドを使用します。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(1)	このコマンドが導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは廃止されました。音声アカウントリング テンプレートを設定するには、アプリケーション コンフィギュレーション モードで callaccounting-template コマンドを使用します。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドにより、T.37 FAX が、Cisco IOS ソフトウェアの非ブロッキング API を使用する VoIP AAA アカウンティング サービスと一貫性を保つようになります。このコマンドは、テンプレート名を T.37 オンランプまたはオフランプ アプリケーションに関連付けることで、ファックスのアカウントリング テンプレートを作成します。

アカウントリング テンプレートを定義して、アカウントリング パケットに含める情報を指定できます。



(注) このコマンドは T.37 ファックスにのみ適用されます。

設定を確認するには、**showcallactivefax** コマンドと **showcallhistoryfax** コマンドを使用します。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice accounting-template
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
call accounting-template
```

以下は、T.37 アカウンティング テンプレートを使用した設定例です。

```
Router(config)# call application voice t37_onramp accounting-template sample-name
Router(config)# call application voice t37_offramp accounting-template sample-name
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピア内の呼び出しアプリケーションを定義します。
callaccounting-template	特定の場所にあるアカウントリング テンプレートを選択します。
callaccounting-templatevoice	特定の場所にある会計テンプレートを選択します。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントを再ロードします。
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。

コマンド	説明
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話がリダイレクトされる電話番号を定義します。
call applicationvoicereetry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoicesecuritytrusted	ANI がブロックされないように、VoiceXML アプリケーションのセキュリティ レベルを信頼済みに設定します。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
showcallactivefax	進行中の FAX 送信の通話情報を表示します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。
表示通話履歴ファクス	FAX 送信の通話履歴テーブルを表示します。

call application voice authen-list



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードで **callapplicationvoiceauthen-list** コマンドが **paramauthen-list** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramauthen-list** コマンドを参照してください。

ツール コマンド言語 (Tcl) アプリケーションの認証方式リストの名前を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceauthenlist** コマンドを使用します。Tcl アプリケーションの認証方式リストを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **authen-listmethod-list-name**
nocallapplication 音声アプリケーション名 **authen-listmethod-list-name**

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
メソッドリスト名	T.38 ファックスリレーおよび T.37 蓄積転送で使用される認証方法のリストの名前に使用される文字列。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは paramauthen-list コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、音声カードのFAXアプリケーションで使用されるAAA認証、許可、および課金方式リストの名前を定義します。ストアアンドフォワードFAXに提供される認証サービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、**aaaauthentication** コマンドを使用して定義されます。標準のAAA(定義された各方式リストを特定のインターフェイスおよび回線に適用できる)とは異なり、FAXアプリケーションで使用されるAAA方式リストはグローバルに適用されます。

認証方式リストを定義したら、**callapplicationvoiceauthenticationenable** コマンドを使用して認証方式リストを有効にします。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice authen-list
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param authen-list
```

次に、T.38 ファックス リレーおよび T.37 スストアンドフォワード ファックスで使用される AAA 認証方式リスト (「fax」) を定義する例を示します。

```
call application voice app_libretto_onramp9 authen-list fax
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaauthentication	課金またはセキュリティ目的で、要求されたサービスの AAA 課金を有効にします。
callapplicationvoiceauthen-method	Tcl アプリケーションの認証方法を指定します。
callapplicationvoiceauthenticationenable	Tcl アプリケーションの AAA 認証サービスを有効にします。

call application voice authen-method



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードでは **callapplicationvoiceauthen-method** コマンドが **paramauthen-method** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramauthen-method** コマンドを参照してください。

ツール コマンド言語 (Tcl) アプリケーションの認証、許可、アカウントिंग (AAA) 認証方式を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceauthen-method** コマンドを使用します。Tcl アプリケーションの認証方法を無効にするには、**no** 形式で指定します。

callapplication 音声アプリケーション名 認証方法 {prompt-user | ani | dnis | gateway | redialer-id | redialer-dnis}

nocallapplication 音声アプリケーション名 認証方法 {prompt-user | ani | dnis | gateway | redialer-id | redialer-dnis}

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
ユーザにプロンプトを表示する	ユーザは Tcl アプリケーション アカウント ID の入力を求められます。
ani	発信側の電話番号 (自動番号識別または ANI) は、Tcl アプリケーション アカウント 識別子として使用されます。
dnis	着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービス または DNIS) は、Tcl アプリケーション アカウント 識別子として使用されます。
ゲートウェイ	ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前が Tcl アプリケーション アカウント 識別子として使用され、次の形式で表示されます: ルーター名.ドメイン名。
redialerid	外部再ダイヤル デバイスから返されるアカウント文字列は、Tcl アプリケーション アカウント 識別子として使用されます。この場合、リダイヤル ID はリダイヤルシリアル番号またはリダイヤルアカウント番号になります。
redialerdnis	リダイヤルデバイスが存在する場合、着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービス または DNIS) は、リダイヤルによって取得される Tcl アプリケーション アカウント 識別子として使用されます。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
	12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは paramauthen-method コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使用される場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使用します。T.37 ストアアンドフォワード FAX および T.38 リアルタイム FAX では、ANI、DNIS、ゲートウェイ ID、リダイヤル ID、またはリダイヤル DNIS を認証用のユーザの識別に使用することを指定できます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice authen-method
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param authen-method
```

次の例では、ホスト名とドメイン名から派生したルータ固有の名前を、**app_sample_onramp9 Tcl** アプリケーションの Tcl アプリケーション アカウント識別子として設定します。

```
call application voice app_sample_onramp9 authen-method gateway
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceauthenticationenable	Tcl アプリケーションの AAA 認証サービスを有効にします。
通話アプリケーション音声認証リスト	Tcl アプリケーションの認証方式リストの名前を指定します。

call application voice accounting enable



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーション設定モードで **callapplicationvoiceaccountingenable** コマンドが **paramaccountingenable** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramaccountingenable** コマンドを参照してください。

ツール コマンド言語 (Tcl) アプリケーションの認証、許可、アカウントिंग (AAA) アカウントिंगを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceaccountingenable** コマンドを使用します。Tcl アプリケーションのアカウントングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **accountingenable**
nocallapplication 音声アプリケーション名 **accountingenable**

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
-----------	--------------

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードでは paramaccountingenable コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、AAA アカウントング方式リストが **aaaaccounting** コマンドと **mmoipaaamethodfaxaccounting** コマンドの両方を使用して定義されている場合に、AAA アカウントング サービスを有効にします。

このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice accounting enable
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param accounting enable
```

次の例では、発信のストアアンドフォワードファックスで使用される AAA アカウンティングを有効にします。

```
call application voice app_libretto_onramp9 accounting enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
mmpaaamethodfaxaccounting	ファックスの蓄積転送による AAA 認証に使用される方式リストの名前を定義します。

call application voice default disc-prog-ind-at-connect

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect** コマンドが置き換えられました。次のいずれかのコマンドを使用します。

- **paramconvert-discpi-after-connect** (アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspaceession_xworkconvert-discpi-after-connect** (サービス設定モード)

通話がアクティブ状態のときに、Progress Indicator が PROG_INBAND (PI=8) に設定された DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect** コマンドを使用します。通話がアクティブ状態のときに、進行状況インジケータを PROG_INBAND (PI=8) に設定した DISCONNECT メッセージに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声 **defaultdisc-prog-ind-at-connect**[1 | 0]

nocallapplication 音声 **defaultdisc-prog-ind-at-connect**[1 | 0]

構文の説明

1 (オプション) 通話がアクティブ状態の場合、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定された DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換します。
0 (オプション) 通話がアクティブ状態の場合、進行状況インジケータを PROG_INBAND (PI=8) に設定した DISCONNECT メッセージに戻ります。

コマンド デフォルト

通話がアクティブ状態の場合、DISCONNECT メッセージの進行状況インジケータは PROG_INBAND (PI=8) に設定されます。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(15)ZJ	このコマンドが導入されました。
12.3(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(4)T に統合されました。
12.3(14)T	callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect コマンドが置き換えられました。次のいずれかのコマンドを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • paramconvert-discpi-after-connect (アプリケーションパラメータ設定モード) • paramspaceession_xworkconvert-discpi-after-connect (サービス設定モード)
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン 通話がアクティブ状態でない場合、このコマンドは何の効果もありません。

このコマンドは、デフォルトの音声アプリケーションで使用できます。一部の Tcl IVR アプリケーションを使用する場合は利用できない場合があります。

このコマンドでは、Cisco IOS コマンドライン インターフェイスのコマンド補完およびヘルプ機能は動作しません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# voice default disc-prog-ind-at-connect
```

```
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param convert-discpi-after-connect
param space session_xwork convert-discpi-after-connect
```

次の例では、通話がアクティブ状態にあるときに、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定された DISCONNECT メッセージは通常の DISCONNECT メッセージに変換されます。

```
call application voice default disc-prog-ind-at-connect 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramspace session_xworkconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。

call application voice dsn-script



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoicedsn-script** コマンドは **paramdsn-script** コマンドに置き換えられました。

オフランプメールアプリケーションがオフランプ配信ステータス通知 (DSN) およびメッセージ処理通知 (MDN) 電子メール メッセージの呼び出しを渡す VoiceXML アプリケーションを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicedsnscript** コマンドを使用します。アプリケーションを削除するには、**no** 形式でこのコマンドを使用します。

callapplication 音声メールアプリケーション名 **dsn-script** アプリケーション名

nocalapplication 音声メールアプリケーション名 **dsn-script** アプリケーション名

構文の説明

メールアプリケーション名	ゲートウェイが電子メール トリガーを受信したときに app_voicemail_offramp.tcl スクリプトを起動するオフランプ メール アプリケーションの名前。
アプリケーション名	宛先が応答したときにメール転送アプリケーションが通話をハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションの名前です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドは、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは paramdsn-script コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

オフランプ ゲートウェイは、DSN または MDN 電子メール メッセージを受信すると、ボイス電子メール トリガー メッセージと同じ方法でそれを処理します。ダイヤルピアはダイヤル番号識別サービス (DNIS) に基づいて選択され、メールアプリケーションはこのコマンドで設定された VoiceXML アプリケーションに呼び出しを渡します。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice dsn-script
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param dsn-script
```

次に、DSN アプリケーションを定義し、それをダイヤルピアに適用する例を示します。

```
call application voice offramp-mapp tftp://sample/tftp-users/tcl/app_voicemail_offramp.tcl
call application voice dsn-mapp-test tftp://sample/tftp-users/vxml/dsn-mapp-test.vxml
call application voice offramp-mapp dsn-script dsn-mapp-test
!
dial-peer voice 1000 mmoip
application offramp-mapp
incoming called-number 555....
information-type voice
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピア内の特定の音声アプリケーションを定義します。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、アプリケーションにロードするドキュメント (Tcl または VoiceXML) の場所を指定します。
paramdsn-script	オフランプメールアプリケーションがオフランプ DSN および MDN 電子メールメッセージの通話を引き渡す先の、VoiceXML アプリケーションを指定します。
showcallapplicationvoice	設定された音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application voice event-log

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoiceevent-log** は廃止されました。特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にするには、次のいずれかのコマンドを使用します。

- **paramevent-log** (アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspaceappcommonevent-log** (サービス設定モード)

特定の音声アプリケーションのイベントログを有効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoiceevent-log** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 イベントログ [無効化]
nocallapplication 音声アプリケーション名 イベントログ

構文の説明	アプリケーション名	音声アプリケーションの名前。
	disable	(オプション) 指定されたアプリケーションのイベント ログを無効にします。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(8)T	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	通話アプリケーション音声イベント ログは廃止されました。特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にするには、次のいずれかのコマンドを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • paramevent-log (アプリケーションパラメータ設定モード) • paramspaceappcommonevent-log (サービス設定モード)
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドはアプリケーション固有であり、すべての音声アプリケーションのイベント ログを有効にするグローバルコンフィギュレーションコマンド **callapplicationevent-log** よりも優先されます。

このコマンドを使用する前に、**callapplicationvoice** コマンドを使用して、ゲートウェイで名前付きアプリケーションを設定する必要があります。



- (注) イベントログが本番トラフィックのシステムリソースに悪影響を及ぼさないようにするために、ゲートウェイはスロットリングメカニズムを使用します。空きプロセッサメモリが20%を下回ると、ゲートウェイはすべてのイベントログを自動的に無効にします。空きメモリが30パーセントを超えると、イベントログの記録を再開します。スロットリングが行われている間は、イベントログが有効になっていても、ゲートウェイは新しいイベントログをキャプチャしません。空きメモリを監視し、障害の切り分けに必要な場合にのみイベントログを有効にしてください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call call application voice event-log
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
  param event-log
  paramspace appcommon event-log
```

次の例では、**sample_app** という名前のアプリケーションのすべてのインスタンスのイベントログを有効にします。

```
call application voice sample_app event-log
```

次の例では、アプリケーション **sample_app** を除くすべてのアプリケーションのイベントログを有効にします。

```
call application event-log
call application voice sample_app event-log disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationevent-log	音声アプリケーション インスタンスのイベント ログを有効にします。
呼び出しアプリケーションイベントログ最大バッファサイズ	各アプリケーション インスタンスのイベント ログ バッファの最大サイズを設定します。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、アプリケーションにロードするスクリプトの場所を指定します。
monitorcallapplicationevent-log	アクティブなアプリケーション インスタンスのイベント ログをリアルタイムで表示します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。

コマンド	説明
paramspaceappcommonevent-log	サービス（アプリケーション）のログを有効化または無効化します。
showcallapplicationssession-level	音声アプリケーションインスタンスのイベントログと統計を表示します。

call application voice fax-dtmf



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoicefax-dtmf** コマンドが **paramfax-dtmf** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramfax-dtmf** コマンドを参照してください。

FAX 検出対話型音声応答 (IVR) アプリケーションに、**default-voice** モードおよび **default-fax** モードで FAX 呼び出しを示す特定の数字を認識するように指示するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicefax-dtmf** コマンドを使用します。この桁の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

call application voice アプリケーション名 **fax-dtmf** {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}

no call application voice アプリケーション名 **ファックス-DTMF** {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}

構文の説明

アプリケーション名	ルータにアプリケーションをロードしたときに定義したファックス検出 IVR アプリケーションの名前。
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #	ファックス検出 IVR アプリケーションの default-voice または default-fax モード中に再生される音声プロンプトに回答して、ファックスコールを示すために発信側が処理する電話のキーパッドの数字です。

コマンド デフォルト

2

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco AS5300 用に導入されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5400 および Cisco AS5350 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは paramfax-dtmf コマンドに置き換えられました。

リリース	変更
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、FAX 検出 IVR アプリケーションが、**callapplicationvoicemode** コマンドで定義されているように、**default-voice** モードまたは **default-fax** モードで設定されている場合のみ役立ちます。

このコマンドで指定できる数字は 1 つだけで、その数字は **callapplicationvoicevoice-dtmf** コマンドで指定された数字と異なる必要があります。両方を同じ数字に設定するという誤りを犯した場合、すぐには通知されません。このエラーを見つけるには、**debugvoipivrsript** コマンドを使用してデバッグを開始し、失敗した呼び出しをいくつか観察する必要があります。

このコマンドは、Cisco IOS ヘルプではサポートされていません。つまり、**callapplicationvoicefax_detectfax-dtmf** および **aquestionmark(?)** と入力しても、Cisco IOS ヘルプでは疑問符の代わりに有効なエントリのリストは表示されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice fax-dtmf
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param fax-dtmf
```

次の例では、DTMF 桁の 1 を選択して FAX 呼び出しを示すために

```
call application voice fax_detect script_url
call application voice fax_detect fax-dtmf 1
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	IVR アプリケーションをルーターにロードし、アプリケーション名を付けます。
callapplicationvoiceaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるように、ファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
callapplicationvoicemode	ファックス検出 IVR アプリケーションを 4 つのモードのいずれかで動作するように構成します。
callapplicationvoiceprompt	指定された音声ファイルをユーザープロンプトとして使用するようにファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。

コマンド	説明
callapplicationvoicevoice-dtmf	指定された数字を認識して音声通話を示すように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
デバッグVoIPIVRスクリプト	ファックス検出 IVR スクリプトからのデバッグ情報を表示します。
paramfax-dtmf	default-voice および default-fax モードで、FAX 呼び出しであることを示すために、指定された桁を認識するように、FAX 検出 IVR アプリケーションに指示します。

call application voice global-password



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードで **callapplicationvoiceglobal-password** コマンドは **paramglobal-password** コマンドに置き換えられます。詳細は、**paramglobal-password** コマンドを確認してください。

音声カードで蓄積転送ファックスを使用する際に、Cisco Secure for Windows NT で使用するパスワードを定義するには、グローバル設定モードで **callapplicationvoiceglobalpassword** コマンドを使用します。既定値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **global-password** パスワード

nocallapplication 音声アプリケーション名 **global-password** パスワード

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションの名前。
パスワード	ストアアンドフォワードファックスで使用される Cisco Secure for Windows NT パスワードを定義するために使用される文字列。長さは英数字で 64 文字までです。

コマンド デフォルト

パスワードが定義されていません

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)XI	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(5)T に統合されました。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは paramglobal-password コマンドに置き換えられます。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

Cisco Secure for Windows NT は、使用するセキュリティプロトコルに関係なく、認証を完了するために別のパスワードを要求する場合があります。このコマンドは、Cisco Secure for Windows NT で使用されるパスワードを指定します。Windows NT サーバ上のすべてのレコードは、この定義されたパスワードを使用します。

このコマンドは、Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバ音声フィーチャー カードのオンランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。モデムカードでは使用されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice global-password
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param global-password
```

次の例は、app_sample_onramp9 Tcl アプリケーションに対して AAA によって使用されるパスワード (abercrombie) を示しています。

```
call application voice app_sample_onramp9 global-password abercrombie
```

関連コマンド

コマンド	説明
paramglobal-password	音声フィーチャーカードで FAX の蓄積転送を使用する場合、Cisco Secure for Windows NT で使用されるパスワードを定義します。

call application voice language

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicelanguage** は次のコマンドに置き換えられました。

- **paramlanguage**(アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspacelanguage** (サービス設定モード)

詳細については、これらのコマンドを参照してください。

対話型音声応答 (IVR) アプリケーションで使用される動的プロンプトの言語 (Tool Command Language (Tcl) または VoiceXML) を指定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicelanguage** コマンドを使用します。アプリケーションからこの言語仕様を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **language** 桁 **language**

nocallapplication 音声アプリケーション名 **language** 桁 **language**

構文の説明

アプリケーション名	言語パラメータが渡されるアプリケーションの名前。
桁	オーディオファイルで使用される言語を識別する番号。任意の数字で任意の言語を表すことができます。第一言語を示すには 1 を入力し、第二言語を示すには 2 を入力します。範囲は 0 から 9 です。
言語	関連付けられているオーディオファイルの言語を識別する 2 文字のコード。有効なエントリは次の通りです: <ul style="list-style-type: none"> • en--英語 • sp--スペイン語 • ch--中国語 • aa--すべて

コマンドデフォルト

このコマンドが設定されていない場合、デフォルトの言語は英語になります。

コマンドモード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)T	このコマンドが導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。

リリース	変更
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 上の VoiceXML アプリケーションをサポートするように変更されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。このリリースには、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドは、VoiceXML アプリケーション用に Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、本リリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco 5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(14)T	通話アプリケーション音声言語 は次のコマンドに置き換えられました: paramlanguage (アプリケーションパラメータ設定モード) paramspacelanguage (サービス設定モード)
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ユーザが言語に入力する番号を識別します。たとえば、「英語の場合は1を入力します。」フランス語の場合は2を入力してください。

この番号は、Tel IVR デビットカード機能でのみ使用されます。VoiceXML では使用されませんが、0 から 9 までの数字を入力する必要があります。

このコマンドを使用する代わりに、Tel スクリプトまたは VoiceXML ドキュメント内で録音済みオーディオファイルの言語と場所を設定できます。詳細については、それぞれ『[Tel IVR APIバージョン2.0プログラマーズガイド](#)』または『[Cisco VoiceXMLプログラマーズガイド](#)』を参照してください。

動的プロンプトに使用される言語オーディオファイルの場所を識別するには、**callapplicationvoiceset-location** コマンドを使用します。

Tel スクリプトおよび VoiceXML ドキュメントは、TFTP、FTP、または HTTP サーバ、ゲートウェイのフラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスクのいずれかの場所に保存できます。使用する音声ファイルは、これらの場所のいずれかで、RTSP サーバに保存できます。

プリペイドデビットカードの多言語機能により、任意の言語の Tcl スクリプトと 2 文字のコードを作成できます。『Cisco Pre-Paid Debitcard Multi-Language Programmer's Reference』を参照してください。

Cisco IOS IVR の多言語サポートにより、Tcl および VoiceXML アプリケーションで使用するために、任意の言語および任意の TTS 表記法セット用の Tcl 言語モジュールを作成できます。「Cisco IOS の自動音声応答の強化された多言語サポート」のドキュメントを参照してください。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 2: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	コマンドを設定する
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドラインインターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_collect_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と DNIS を使用してアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
clid_col_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、アカウント番号とPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	このスクリプトは、アカウントとPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。口座番号とPINと一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先のFAX回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAX から T.37 FAX へのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)#
call application voice language
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
  param language
  paramspace language
```

次の例は、アプリケーション「prepaid」を定義し、アプリケーションに関連付けられたオーディオファイルの言語として英語とスペイン語を選択する方法を示しています。

```
call application voice prepaid tftp://keyer/debitcard.tcl
call application voice prepaid language 1 en
call application voice prepaid language 2 sp
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を指定し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話を転送する電話番号を指定します。

コマンド	説明
call applicationvoicereetry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
param言語	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application voice load

選択した音声アプリケーションスクリプトを変更後にリロードするには、特権 EXEC モードで **callapplicationvoiceload** コマンドを使用します。このコマンドには **no** 形式がありません。

callapplication 音声 load アプリケーション名

構文の説明	アプリケーション名	再ロードする Tcl または VoiceXML アプリケーションの名前。
-------	-----------	--------------------------------------

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズ (Cisco 3660 を除く)、および Cisco AS5300 で導入されました。
	12.1(3)T	メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) の動的スクリプト読み込みのサポートが追加されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
	12.2(2)XB	このコマンドは、VoiceXML アプリケーションをサポートするために変更されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco 1750 に実装されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドは、VoiceXML アプリケーション用に Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、アプリケーション Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントを変更した後にゲートウェイに再ロードします。

指定されたアプリケーションの Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントの場所は、**callapplicationvoice** コマンドを使用する前に設定されている必要があります。

アプリケーションで使用されるドキュメントを指定するときは、ファイル名にファイルタイプ拡張子 (.vxml または .tcl) を含めないでください。

Tcl スクリプトおよび VoiceXML ドキュメントは、TFTP、FTP、または HTTP サーバ、ゲートウェイのフラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスクのいずれかの場所に保存できます。使用されるオーディオファイルは、これらの場所のいずれか、および RTSP サーバに保存できます。

Cisco IOS リリース 12.1(3)T より前のバージョンでは、ソフトウェアは Tcl スクリプトの署名をチェックし、それがシスコでサポートされているかどうかを確認していました。Tcl スクリプトの署名は不要になりました。VoiceXML ドキュメントには署名は必要ありません。

アクティブな通話がある場合、Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントはリロードできません。**showcallapplicationvoice** コマンドを使用して、このアプリケーションを使用しているアクティブな通話がないことを確認します。



ヒント **callapplicationvoiceload** コマンドが、アプリケーションに関連付けられた Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメントのロードに失敗した場合は、**debugvoipivr** コマンドを有効にして再試行してください。このデバッグコマンドは、読み込みが失敗した理由に関する情報を提供できます。



(注) MGCP スクリプトは、Cisco 1750 ルータまたは Cisco 7200 シリーズルータではサポートされていません。

例

次の例は、「clid_4digits_npw_3.tcl」という Tcl スクリプトの読み込みを示しています。

```
call application voice load clid_4digits_npw_3.tcl
```

次の例は、「vapptest」という VoiceXML アプリケーションをリロードする方法を示しています。

```
call application voice load vapptest
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationcachereadtime	MGCP スクリプトを再ロードする間隔を設定します。
callapplicationvoice	IVR 機能と対話するアプリケーションを作成して呼び出します。
デバッグ http クライアント	HTTP でロードされたアプリケーションの負荷に関する情報を表示します。
showcallapplicationvoice	設定されている音声アプリケーションの一覧を表示します。

通話 アプリケーション 音声 メールスクリプト



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoicemail-script** コマンドが **parammail-script** コマンドに置き換えられました。詳細については、**parammail-script** コマンドを参照してください。

宛先電話が応答したときにオフランプ メール アプリケーションが通話をハンドオフする VoiceXML アプリケーションを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicemail-script** コマンドを使用します。アプリケーションを削除するには、**no** 形式でこのコマンドを使用します。

callapplication 音声 メール アプリケーション名 **mail-script** アプリケーション名
nocallapplication 音声 メール アプリケーション名 **mail-script** アプリケーション名

構文の説明	
メールアプリケーション名	ゲートウェイが電子メール トリガーを受信したときに app_voicemail_offramp.tcl スクリプトを起動するオフランプ メール アプリケーションの名前。
アプリケーション名	宛先が応答したときにメール転送アプリケーションが通話をハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションの名前です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はない

コマンド モード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドは、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーションパラメータ設定モードでは parammail-script コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン ゲートウェイにメールアプリケーションをロードするには、**callapplicationvoice** コマンドを使用します。

オフランプメールアプリケーションは、着信電子メールメッセージのヘッダーに含まれる電話番号と一致する Multimedia Mail over Internet Protocol (MMoIP) ダイアルピアで構成する必要があります。

オフランプメールアプリケーションは、Cisco が提供する「app_voicemail_offramp.tcl」という名前の Tool Command Language (Tcl) スクリプトを使用する必要があります。この Tcl スクリプトは、次のパスに従って Cisco Web サイトからダウンロードできます: Cisco > Technical Support Help - TAC > Select & Download Software > Software Center > Access Software > TclWare。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice mail-script
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param mail-script
```

次の例は、電子メールのヘッダーにある電話番号が 555 で始まる 7 桁の場合に、「offramp-mapp」という名前のオフランプメールアプリケーションが通話を「mapp-test」というアプリケーションにハンドリングする例を示しています。

```
call application voice offramp-mapp tftp://sample/tftp-users/tcl/app_voicemail_offramp.tcl
call application voice mapp-test tftp://sample/tftp-users/vxml/user-test.vxml
call application voice offramp-mapp mail-script mapp-test
!
dial-peer voice 1001 mmoip
application offramp-mapp
incoming called-number 555....
information-type voice
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイアルピア内の特定の音声アプリケーションを定義します。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、アプリケーションにロードするドキュメント (Tcl または VoiceXML) の場所を指定します。
parammail-script	宛先の電話が応答したときに、オフランプメールアプリケーションが呼び出しをハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションを指定します。
showcallapplicationvoice	設定された音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application voice mode



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoicemode** コマンドは **parammode** コマンドに置き換えられました。詳細については、**parammode** コマンドを参照してください。

ファックス検出対話型音声応答 (IVR) アプリケーションを 4 つの接続モードのいずれかで動作するように指示するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicemode** コマンドを使用します。デフォルトの接続モードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名モード {**connect-first** | **listen-first** | **default-voice** | **default-fax**}
nocallapplication 音声アプリケーション名モード {**connect-first** | **listen-first** | **default-voice** | **default-fax**}

構文の説明

アプリケーション名	アプリケーションがルータにロードされたときに定義されたファックス検出 IVR アプリケーション。
connectfirst	着信コールは、リアルタイム ストリーミング プロトコル (RTSP) サーバに接続されます。これはデフォルトです。
listen-first	ゲートウェイは最初に通話をリッスンし、次に RTSP サーバに接続します。DTMF トーンにより通話は音声サーバーに渡されますが、後続の DTMF は設定どおりに転送されます。
デフォルト音声	着信は音声通話として RTSP サーバに接続されます。
デフォルトファックス	着信コールは、ゲートウェイで設定されている FAX リレーまたはストアアンドフォワード FAX アプリケーションに接続されます。

コマンド デフォルト

まず接続する

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でサポートされています。
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション パラメータ設定モードでは parammode コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

通話アプリケーションの音声モード コマンドは、ゲートウェイが FAX 検出 IVR アプリケーションの通話を処理する方法を制御します。

connect-first キーワードが選択され、発信元ファックス機器からの CNG（呼び出し）トーンが検出されると、音声アプリケーションが切断され、通話は設定されたファックスアプリケーションに渡されます。**listen-first** キーワードを選択した場合、ゲートウェイは CNG をリッスンし、CNG が検出された場合は、ゲートウェイに設定されているファックスリレーまたはストアアンドフォワードファックスアプリケーションに呼び出しを渡します。**default-voice** および **default-fax** キーワードが選択されている場合、ゲートウェイは CNG をリッスンした後にデフォルトで音声に設定するか、ゲートウェイで設定されているファックスリレーまたはストアアンドフォワードファックスアプリケーションに呼び出しを渡します。ゲートウェイが、**callapplicationvoicevoice-dtmf** コマンドまたは **callapplicationvoicefax-dtmf** コマンドで指定されたデュアル トーン マルチ周波数 (DTMF) トーンを受信すると、通話は適切に転送されます。

4 つの接続モードすべてにおいて、通話が音声サーバに接続された場合でも、ルータは通話中ずっと CNG をリッスンし続けます。CNG が検出されると、設定されている方に従って、通話は FAX リレーまたはストア アンド フォワード FAX に接続されます。

このコマンドは、Cisco IOS ヘルプではサポートされていません。

callapplicationvoicefax_detectmode コマンドと疑問符 (?) を入力しても、Cisco IOS ヘルプでは疑問符の代わりに有効なエントリのリストは表示されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice mode
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param mode
```

次の例は、ファックス検出アプリケーションのデフォルトの音声モードの選択を示しています。

```
call application voice fax_detect script_url
call application voice fax_detect mode default-voice
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationvoice	指定された IVR アプリケーションを TFTP サーバからルーターにロードし、ルーター上で認識されるアプリケーション名を付けます。
	callapplicationvoiceaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるように、ファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
	callapplicationvoicefax-dtmf	指定された数字を認識してファックス呼び出しを示すように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
	callapplicationvoiceprompt	ファックス検出 IVR アプリケーションを構成して、指定されたオーディオ ファイルを listen-first モード、default-voice モード、または default-fax モードでユーザプロンプトとして使用します。
	callapplicationvoicevoice-dtmf	指定された数字を認識して音声通話を示すように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
	parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。

call application voice pin-len



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードで **callapplicationvoicepin-len** コマンドは **parampin-len** コマンドに置き換えられました。詳細については、**parampin-len** コマンドを参照してください。

指定されたアプリケーションの個人識別番号 (PIN) の文字数を定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicepinlen** コマンドを使用します。指定のアプリケーションの PIN を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **pin-len** *number*

nocallapplication 音声アプリケーション名 **pin-len** *number*

構文の説明

アプリケーション名	PIN 長さパラメータが渡されるアプリケーション名。
<i>number</i>	指定のアプリケーションに関連する PIN の許容文字数です。範囲は 0 ~ 10 です。デフォルトは 4 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)T	このコマンドが導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco 1750 に実装されました。
12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。

リリース	変更
12.3(14)T	アプリケーションパラメータ設定モードで、 callapplicationvoicepin-len コマンドが parampin-len コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Interactive Voice Response (IVR)を設定する際、またはIVR関連機能（デビットカードなど）の一つを設定する際に使用します。使用するTool Command Language (Tcl) スクリプトによりますが、指定したアプリケーションのPINの許容文字数を定義し、その情報を指定したアプリケーションに渡すために使用します。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 3: Tcl スクリプトとコマンド

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドラインインターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
clid_authen_collect_cli.tcl	このスクリプトは、ANIとDNISを使用してアカウント番号とPINを認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数はCLIを通じて設定されます。口座番号とPINは別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、アカウント番号とPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	このスクリプトは、アカウントとPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。口座番号とPINが一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先のFAX回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAXから T.37 FAXへのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice pin-len
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param pin-len
```

次の例は、「prepaid」という名前のアプリケーションに対してPINの長さを4文字に定義する方法を示しています。

```
call application voice prepaid pin-len 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を指定し、アプリケーションで使用する適切なIVRスクリプトの場所を示します。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定されたTclスクリプトをリロードします。
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話を転送する電話番号を指定します。

コマンド	説明
call applicationvoicereetry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。

call application voice prompt



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoiceprompt** コマンドは **paramprompt** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramprompt** コマンドを参照してください。

ファックス検出対話型音声応答 (IVR) アプリケーションで、指定されたオーディオファイルユーザプロンプトとして使用するよう指示するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **callapplicationvoiceprompt** コマンドを使用します。この音声ファイルの使用を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名プロンプト *prompt-url*

nocallapplication 音声アプリケーション名プロンプト *prompt-url*

構文の説明

アプリケーション名	ルータにアプリケーションをロードしたときに定義した FAX 検出 IVR アプリケーションの名前。
プロンプト URL	アプリケーションのプロンプトを含むオーディオファイルの TFTP サーバ上の URL または Cisco IOS ファイル システムの場所。

コマンド デフォルト

プロンプトスペースが空で、プロンプトは再生されません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco AS5300 用に導入されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5400 および Cisco AS5350 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramprompt コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、ファックス検出アプリケーションが、listen-first、default-voice、および default-fax モードの場合だけです。

発信者が最初の CNG 検出期間中に無音を聞かないように、音声ファイルは少なくとも 9 秒必要です。任意の .au ファイルを使用できます。形式については、『Cisco IOS 音声、ビデオ、およびファックス設定ガイド、リリース 12.4』で説明されています。

このコマンドは、Cisco IOS ヘルプではサポートされていません。疑問符 (?) を付けて **callapplicationvoicefax_detectprompt** コマンドを入力した場合、Cisco IOS ヘルプでは疑問符の代わりに有効なエントリのリストは表示されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice prompt
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param prompt
```

次の例では、音声ファイル "promptfile.au" をアプリケーション ファイル 「fax_detect」に関連付け、アプリケーションを着信 POTS ダイアルピアに関連付けます:

```
call application voice fax_detect script_url
call application voice fax_detect mode default-voice
call application voice fax_detect prompt promptfile.au
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	指定された IVR アプリケーションを TFTP サーバからルーターにロードし、ルーター上で認識されるアプリケーション名を付けます。
callapplicationvoiceaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるように、ファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
callapplicationvoicefax-dtmf	指定された数字を認識してファックス呼び出しを示すように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
callapplicationvoicemode	ファックス検出 IVR アプリケーションを 4 つのモードのいずれかで動作するように構成します。
callapplicationvoicevoice-dtmf	ファックス検出 IVR アプリケーションに、音声コールであることを示す指定された番号を認識させるように設定します。

コマンド	説明
パラメータプロンプト	指定された音声ファイルをユーザープロンプトとして使用するようファックス検出 IVR アプリケーションに指示します。

call application voice redirect-number



- (注) Cisco IOS Release 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータの設定モードで **callapplicationvoiceredirect-number** コマンドが **paramredirect-number** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramredirect-number** コマンドを参照してください。

指定されたアプリケーションに対して、通話の転送先の電話番号（たとえば、サービスプロバイダーのオペレータ電話番号）を定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceredirectnumber** コマンドを使用します。電話番号のリダイレクトをキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **redirect-number** *number*
nocallapplication 音声アプリケーション名 **redirect-number** *number*

構文の説明

アプリケーション名	リダイレクト電話番号パラメータが渡されるアプリケーションの名前。
<i>number</i>	サービスプロバイダーの指定オペレータ電話番号 (または顧客が指定したその他の番号) これは、たとえば、許可されたデビットタイムがなくなった場合、またはデビット金額を超過した場合に、通話が終了する番号です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 で導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。

リリース	変更
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramredirect-number に置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン Interactive Voice Response (IVR) を設定する場合、または IVR 関連機能（デビットカードなど）のいずれかを定義するために、このコマンドを使用します。使用されているツールコマンド言語 (Tcl) スクリプトによりますが、電話がリダイレクトされる電話番号を定義します。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 4: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	コマンドを設定する
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドラインインターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoiceretry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
clid_authen_col_npw_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_collect_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と DNIS を使用してアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、アカウント番号と PIN にそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	このスクリプトは、アカウントと PIN にそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN が一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先の FAX 回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAX から T.37 FAX へのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice redirect-number
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param redirect-number
```

次の例では、"プリペイド"という名前のアプリケーションのリダイレクト番号を定義する方法を示します:

```
call application voice prepaid redirect-number 5550111
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を指定し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
	callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定し、その情報をアプリケーションに渡します。
	callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。

コマンド	説明
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションのPINの文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
call applicationvoicereetry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者がPINを再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションのUIDの文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
param リダイレクト番号	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。

call application voice retry-count



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、アプリケーションパラメータ設定モードでは、**callapplicationvoicere retry-count** コマンドは **paramretry-count** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramretry-count** コマンドを参照してください。

指定されたアプリケーションに対して発信者が個人識別番号 (PIN) を再入力できる回数を定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicere retrycount** コマンドを使用します。再試行回数をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名再試行回数 *number*
nocallapplication 音声アプリケーション名再試行回数 *number*

構文の説明

アプリケーション名	可能な再試行回数が渡されるアプリケーションの名前。
<i>number</i>	発信者が PIN 番号を再入力できる回数 範囲は 1 ~ 5 です。デフォルトは 3 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)T	このコマンドが導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは、このリリースには含まれていません。

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramretry-count コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン Interactive Voice Response (IVR) を設定する場合、または使用されている Tool Command Language (Tcl) スクリプトに応じて、または IVR 関連機能 (デビットカードなど) の 1 つで、ユーザが PIN を再入力できる回数を定義する場合にこのコマンドを使用します。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 5: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	コマンドを設定する
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドラインインターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
clid_authen_collect_cli.tcl	このスクリプトは、ANIとDNISを使用してアカウント番号とPINを認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数はCLIを通じて設定されます。口座番号とPINは別々に収集されます。	callapplicationvoicere retry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、アカウント番号とPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。	callapplicationvoicere retry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	このスクリプトは、アカウントとPINにそれぞれANIとNULLを使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数はCLIを通じて設定されます。口座番号とPINが一緒に収集されます。	callapplicationvoicere retry-count 範囲は1~5です。デフォルトは3です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先のFAX回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAXからT.37 FAXへのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application retry-count
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param retry-count
```

次の例は、「prepaid」という名前のアプリケーションに対して、ユーザが切断される前にPINを3回再入力できるように定義する方法を示しています。

```
call application voice prepaid retry-count 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を指定し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。

コマンド	説明
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話を転送する電話番号を指定します。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-len	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
param再試行回数	発信者がパッケージの PIN を再入力できる回数を定義します。

call application voice security trusted

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicsecuritytrusted** コマンドは次のコマンドに置き換えられました。

- **paramsecuritytrusted** (アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspaceappcommonsecuritytrusted**(サービス構成モード)

詳細については、これらのコマンドを参照してください。

自動番号識別 (ANI) がブロックされないように VoiceXML アプリケーションのセキュリティレベルを「trusted」に設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicsecuritytrusted** コマンドを使用します。デフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名セキュリティ trusted
nocallapplication 音声アプリケーション名セキュリティ信頼できる

構文の説明

アプリケーション名	信頼済みとして設定されているアプリケーションの名前。
-----------	----------------------------

コマンド デフォルト

アプリケーションのセキュリティ レベルが信頼済みを設定されていないため、ANI がブロックされています。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 で導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に実装されました。
12.3(14)T	callapplicationvoicsecuritytrusted コマンドは、次のコマンドに置き換えられました。 <ul style="list-style-type: none"> • paramsecuritytrusted (アプリケーションパラメータ設定モード) • paramspaceappcommonsecuritytrusted(サービス構成モード)
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、VoiceXML アプリケーションにのみ適用されます。



- (注) ツール コマンド言語 (Tcl) アプリケーションは、アプリケーションにセキュリティ パラメータを提供しますが、それを使用しません。

アプリケーションが信頼できるアプリケーションとして設定されている場合、宛先に発信番号を提供しないことが信頼されているため、ANI は利用可能な場合に常に提供されます。

通常、発信者 ID がブロックされている場合、音声ゲートウェイは、発信番号 (ANI) を VoiceXML アプリケーションに提供しません。音声ゲートウェイに着信する通話のプレゼンテーション表示フィールドが [プレゼンテーション制限] に設定されている場合、発信者番号通知はブロックされます。 `session.telephone.ani` 変数が「ブロックされている」に設定されています。

callapplicationvoicsecuritytrusted コマンドが設定されている場合、ゲートウェイは発信者 ID をブロックせず、発信番号を VoiceXML アプリケーションに提供します。

このコマンドのキーワードが **trusted** 以外に設定されている場合、その値は受け入れられ、アプリケーションは信頼できないものとして扱われます。たとえば、次の構成では、アプリケーション「sample」は信頼できないものとして扱われ、発信者 ID はブロックされます。

```
call application voice sample security not_trusted
```

コールシグナリングメッセージ内の Generic Transparency Descriptor (GTD) パラメータを有効にして VoiceXML および Tcl セッション変数にマップするには、

callapplicationvoicsecuritytrusted コマンドを設定します。このコマンドが設定されていない場合、GTD パラメータに対応する VoiceXML 変数は利用不可としてマークされます。VoiceXML および Tcl セッション変数の詳細は、それぞれ『Cisco VoiceXML Programmer's Guide』および『[Tcl IVR API Version 2.0 Programmer's Guide](#)』を参照してください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice security trusted
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param security trusted (application parameter configuration mode)
paramspace appcommon security trusted
```

次の例では、アプリケーション「sample」を信頼できるアプリケーションとして構成します。サービスプロバイダーによってサポートされている場合、発信者 ID はこの VoiceXML アプリケーションで利用できます。

```
call application voice sample flash:sample.vxml
call application voice sample security trusted
```

次の例では、アプリケーション「example」を信頼されていないものとして設定します。発信者 ID をブロックできます。

```
call application voice coldcall tftp://joeserver/sellcars.vxml
no call application voice example security trusted
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、アプリケーションにロードするドキュメント (Tcl または VoiceXML) の場所を指定します。
	callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションによる動的プロンプトに使用されるオーディオファイルの言語を定義します。
	callapplicationvoiceload	Tcl または VoiceXML ドキュメントを再読み込みします。
	callapplicationvoicepin-len	Tcl アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
	callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話がリダイレクトされる電話番号を定義します。
	call applicationvoicereetry-count	指定されたアプリケーションに対して発信者が PIN を再入力できる回数を定義します。
	callapplicationvoiceuid-len	指定アプリケーションの UID の文字数を定義します。
	callapplicationvoicewarning-time	ユーザのアカウントの有効期限が切れる前に警告プロンプトを再生する秒数を定義します。
	paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
	paramspaceappcommonsecurity	サービス (アプリケーション) のセキュリティを設定します。
	showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関連付けられた、オーディオファイル、プロンプト、発信者の対話、中止キー操作などの情報を表示します。

call application voice set-location



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoiceset-location** コマンドは **paramspacelanguage** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramspacelanguage** コマンドを参照してください。

指定された IVR アプリケーション (Tel または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用されるオーディオファイルのカテゴリと場所を定義するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicesetlocation** コマンドを使用します。これらの定義を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **set-location** *languagecategory* 位置
nocallapplication 音声アプリケーション名 場所の設定 *languagecategory* 位置

構文の説明

アプリケーション名	setlocation パラメータが渡されるアプリケーションの名前です。
言語	音声ファイルに関連する言語を識別する 2 文字のコードです。有効なエンタリは次の通りです: <ul style="list-style-type: none"> • en--英語 • sp--スペイン語 • ch--中国語 • aa--すべて これは、 callapplicationvoicelanguage コマンドを設定する際に入力した言語コードと同じです。
カテゴリ	音声ファイルのカテゴリグループです (0 から 4)。たとえば、日と月を表す音声ファイルはカテゴリ 1、通貨単位を表す音声ファイルはカテゴリ 2、時間の単位 (秒、分、時間) を表す音声ファイルはカテゴリ 3 とします。範囲は 0 から 4 までで、0 はすべてのカテゴリを意味します。
位置	音声ファイルの URL。有効な URL は、TFTP、FTP、HTTP、RTSP サーバ、フラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスクを参照します。

コマンド デフォルト 場所やカテゴリが設定されていません。

コマンド モード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 で導入されました。
	12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
	12.2(2)XB	このコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 上の VoiceXML アプリケーションをサポートするように変更されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)XM	このコマンドが Cisco 1751 に実装されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco 1750 に実装されました。
	12.2(8)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドは、VoiceXML アプリケーション用に Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
	12.3(14)T	このコマンドは、 paramspacelanguage コマンドに置き換えられました。
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する代わりに、Tcl スクリプトまたは VoiceXML ドキュメント内で録音済みオーディオファイルの言語と場所を設定できます。詳細については、それぞれ『[Tel IVR API バージョン 2.0 プログラマーズガイド](#)』または『[Cisco VoiceXML プログラマーズガイド](#)』を参照してください。

オーディオファイルの言語を識別するには、**callapplicationvoicelanguage** コマンドを使用します。

Tcl スクリプトと VoiceXML ドキュメントは、次の場所のいずれかに保存することができます: TFTP、FTP、または HTTP サーバ上、ゲートウェイのフラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスク。使用する音声ファイルは、これらの場所のいずれかで、RTSP サーバに保存できます。

1 つのアプリケーションに複数の **set-location** 行を設定することができます。

プリペイドデビットカードの多言語機能により、任意の言語の Tcl スクリプトと 2 文字のコードを作成できます。『[Cisco Pre-Paid Debitcard Multi-Language Programmer's Reference](#)』を参照してください。

Cisco IOS IVR の多言語サポートにより、任意の言語の Tcl 言語モジュール、および Tcl および VoiceXML アプリケーションで使用する任意の音声合成 (TTS) 記法を作成できます。「Cisco IOS の自動音声応答の強化された多言語サポート」のドキュメントを参照してください。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 6: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	コマンドを設定する
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドライン インターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_collect_cli.tcl	ANI と DNIS を使用してアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	アカウント番号と PIN に対してそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tclスクリプト名	説明	コマンドを設定する
clid_col_npw_npw_cli.tcl	アカウントと PIN に対してそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN が一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先の FAX 回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAX から T.37 FAX へのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice set-location
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
paramspace language
```

次の例は、「prepaid」という名前のアプリケーションに対して **callapplicationvoiceset-location** コマンドを設定する方法を示しています。この例では、指定されている言語は英語、オーディオファイルがグループ化されているカテゴリはカテゴリ 0(すべてを意味する)、場所は TFTP サーバ上のキーヤーディレクトリです。

```
call application voice prepaid set-location en 0 tftp://keyer/
```

次の例は、「sample」という架空の VoiceXML アプリケーションに対して **callapplicationvoiceset-location** コマンドを設定する方法を示しています。この例では、前の例と同様に、定義されている言語は英語、オーディオファイルがグループ化されているカテゴリはカテゴリ 0(「すべて」を意味する)、場所は HTTP サーバ上の例のディレクトリです。

```
call application voice sample set-location en 0 http://example/
```

次の例は、複数の設定場所に対して **callapplicationvoiceset-location** コマンドを設定する方法を示しています。

```
call application voice sample set-location en 0 http://example/en_msg/
call application voice sample set-location sp 0 http://example/sp_msg/
call application voice sample set-location ch 0 http://example/ch_msg/
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	アプリケーション名を指定し、このアプリケーションで使用される IVR スクリプトの場所を示します。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。

コマンド	説明
callapplicationvoicepin-len	PIN の文字数を指定します。
callapplicationvoiceredirect-number	通話を転送する電話番号を指定します。
call applicationvoicereetry-count	発信者が PIN を再入力できる回数を定義します。
通話アプリケーション音声uid-len	指定アプリケーションの UID の文字数を定義します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。

call application voice transfer mode

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicetransfermode** コマンドは次のコマンドに置き換えられました。

- **parammode**(アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspacecallsetupmode**(サービス設定モード)

詳細については、これらのコマンドを参照してください。

Tool Command Language (Tcl) または VoiceXML アプリケーションのコール転送方式を指定するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicetransfermode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **transfer** モード {**redirect** | **redirect-at-alert** | **redirect-at-connect** | **redirect-rotary** | **rotary**}

nocallapplication 音声アプリケーション名 **transfer** モード

構文の説明

アプリケーション名	転送方法が設定されている音声アプリケーションの名前。
redirect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に通話の脚をリダイレクトします。
redirect-at-alert	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグがアラート状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つのコールレグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。2つの B チャンネル転送 (TBCT) のサポートを提供します。
redirect-at-connect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグが接続状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。TBCT のサポートを提供します。
redirect-rotary	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に通話の脚をリダイレクトします。リダイレクションが失敗した場合、ゲートウェイはリダイレクトされた宛先番号に rotary call を発信し、2つの通話の脚をヘアピンターンします。TBCT の場合、このモードは redirect-at-connect キーワードと同じです。
rotary	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールレグをヘアピンターンします。コールリダイレクションは呼び出されません。これはデフォルトです。

コマンドデフォルト ロータリー;コールリダイレクションは呼び出されません。

コマンドモード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(1)	このコマンドが導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドは次のコマンドに置き換えられました: <ul style="list-style-type: none"> • parammode(アプリケーションパラメータ設定モード) • paramspacecallsetupmode(サービス設定モード)
	12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドは、音声アプリケーションが TBCT または RTPvt を呼び出すことができるかどうかを決定します。このコマンドを使用する前に、**callapplicationvoice** コマンドを使用して、ゲートウェイで名前付きアプリケーションを設定する必要があります。

リダイレクトロータリーは、推奨される転送方法です。これにより、通話路が対応している限り、コールリダイレクト方法が常に選択されるためです。

Tcl スクリプトは、`info tag get cfg_avpair transfer-mode` ステートメントを使用してこのコマンドの値を読み取ることができます。詳細については、『[Tcl IVR API バージョン 2.0 プログラマーズガイド](#)』を参照してください。

VoiceXML アプリケーションの場合、VoiceXML ドキュメントで `com.cisco.transfer.mode` プロパティが指定されていない場合、このコマンドの値がデフォルトの動作になります。詳細については、『[Cisco VoiceXML プログラマーズガイド](#)』を参照してください。VoiceXML ドキュメントプロパティはゲートウェイ構成よりも優先されます。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンドオプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice transfer mode
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
  param mode
  paramspace callsetup mode
```

次の例では、アプリケーション `callme` の転送方法をリダイレクトに設定します。

```
Router(config)# call application voice callme transfer mode redirect
```

関連コマンド	コマンド	説明
	アプリケーション	ダイヤルピアで音声アプリケーションを有効にします。
	callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
	callapplicationvoicetransferroute-mode	Tcl アプリケーションの着信転送動作を指定します。
	デバッグVoIPIVRコールセットアップリダイレクト	セットアップ中にリダイレクトされる H.450 コールに関するデバッグ情報を表示します。
	デバッグVoIPIVRリダイレクト	リダイレクトされた H.450 通話に関するデバッグ情報を表示します。
	isdnsupp-servicetbet	PRI トランク上で ISDN TBCT を有効にします。
	parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
	paramspacecallsetupmode	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
	showcallactivevoiceredirect	RTPvt または TBCT を使用してリダイレクトされているアクティブな通話に関する情報を表示します。
	showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。
	showcallhistoryvoiceredirect	RTPvt または TBCT を使用してリダイレクトされた通話の履歴情報を表示します。

call application voice transfer reroute-mode

Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicetransferreroute-mode** コマンドは次のコマンドに置き換えられました。

- **paramreroutemode** (アプリケーションパラメータ設定モード)
- **paramspacecallsetupreroutemode** (サービス設定モード)

詳細については、これらのコマンドを参照してください。

Tool Command Language (Tcl) アプリケーションのコール転送動作を指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicetransferreroute-mode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** の形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **transfer** 再ルートモード {**none** | **redirect** | **redirect-rotary** | **rotary**}

nocallapplication 音声アプリケーション名 **transfer** 再ルートモード

構文の説明

アプリケーション名	転送再ルート方法が設定されている音声アプリケーションの名前。
なし	通話転送は音声アプリケーションでは実行されません。
redirect	2つのコールレグが直接接続されています。RTPvtのサポートを提供します。
redirect-rotary	2つのコールレグが直接接続されています(リダイレクト)。それが失敗した場合、2つのコールレグはゲートウェイ(rotary)でヘアピンされます。
rotary	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールをまとめてヘアピンターンします。RTPvtは呼び出されません。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

回転方式; RTPvt は起動されません。

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(1)	このコマンドが導入されました。

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは次のコマンドに置き換えられました: <ul style="list-style-type: none"> • paramreroutemode (アプリケーションパラメータ設定モード) • paramspacecallsetupreroutemode (サービス設定モード)
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しいCLIへの自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**callapplicationvoice** コマンドを使用して、ゲートウェイで名前付きアプリケーションを設定する必要があります。このコマンドは、VoiceXML アプリケーションまたは TBCT ではサポートされていません。

リダイレクトロータリーは、推奨される転送方法です。これにより、通話路が対応している限り、コールリダイレクト方法が常に選択されるためです。

Tcl スクリプトは、`info tag get cfg_avpair reroute-mode` ステートメントを使用してこのコマンドの値を読み取ることができます。詳細については、『[Tcl IVR API バージョン 2.0 プログラマーズガイド](#)』を参照してください。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice transfer reroute-mode
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
  param reroutemode (application parameter configuration mode)
  paramspace callsetup reroutemode
```

次の例では、アプリケーション `callme` のコール転送方法をリダイレクトに設定します。

```
Router(config)# call application voice callme transfer reroute-mode redirect
```

関連コマンド

コマンド	説明
アプリケーション	ダイヤルピアで音声アプリケーションを有効にします。
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
callapplicationvoicetransfermode	Tcl または VoiceXML アプリケーションのコール転送動作を指定します。
isdnsupp-servicetbct	PRI トランク上で ISDN TBCT を有効にします。

コマンド	説明
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード(着信転送)を設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード(着信転送)を設定します。
showcallactivevoiceredirect	RTPvtまたはTBCTを使用してリダイレクトされているアクティブな通話に関する情報を表示します。
showcallapplicationvoice	音声アプリケーションに関する情報を表示します。
showcallhistoryvoiceredirect	RTPvtまたはTBCTを使用してリダイレクトされた通話の履歴情報を表示します。

call application voice uid-length



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoiceuid-length** コマンドは **paramuid-len** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramuid-len** コマンドを参照してください。

指定されたアプリケーションのユーザ識別 (UID) 番号の文字数を定義し、その情報を指定されたアプリケーションに渡すには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoiceuid-length** コマンドを使用します。このコマンドの設定をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 **uid-length** *number*
nocallapplication 音声アプリケーション名 **uid** の長さ *number*

構文の説明	アプリケーション名	UID 長さパラメータが渡されるアプリケーションの名前。
	<i>number</i>	指定のアプリケーションに関連する UID の許容文字数です。範囲は 1 ~ 20 です。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト *number*

コマンド モード
 グローバル構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(7)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 で導入されました。
	12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
	12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
	12.2(4)XM	このコマンドは Cisco 1751 に実装されました。このリリースでは、他の Cisco プラットフォームはサポートされていません。
	12.2(4)T	Cisco 1750 のサポートが追加されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに実装されました。

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。このコマンドは、このリリースでは Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramuid-len コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン このコマンドは、使用されているツール コマンド言語 (Tcl) スクリプトに応じて対話型音声応答 (IVR) を設定する場合、または IVR 関連機能 (デビットカードなど) の 1 つを設定する場合に使用して、指定されたアプリケーションの UID で許容される文字数を定義し、その情報を指定されたアプリケーションに渡します。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 7: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	設定するコマンド
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドライン インターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tcl スクリプト名	説明	設定するコマンド
clid_authen_collect_cli.tcl	ANI と DNIS を使用してアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	アカウント番号と PIN に対してそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	アカウントと PIN に対してそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN が一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先の FAX 回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAX から T.37 FAX へのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice uid-length
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param uid-len
```

次の例は、アプリケーション「sample」の UID で許可される 4 つの文字を設定する方法を示しています。

```
Router(config)# all application voice sample uid-length 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	アプリケーションに使用する名前を指定し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
callapplicationvoicepin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話を転送する電話番号を指定します。

コマンド	説明
call applicationvoicereetry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoicewarning-time	指定されたアプリケーションの許可された通話時間が終了する前に、ユーザに事前に警告する時間を秒単位で定義します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。

call application voice voice-dtmf



(注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicevoice-dtmf** コマンドは **paramvoice-dtmf** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramvoice-dtmf** コマンドを参照してください。

ファックス検出対話型音声応答 (IVR) アプリケーションに、音声通話を示す特定の数字を認識するように指示するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **callapplicationvoicevoice-dtmf** コマンドを使用します。この桁の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名 音声-DTMF キーパッド文字
nocallapplication 音声アプリケーション名 音声-DTMF キーパッド文字

構文の説明

アプリケーション名	ルータにアプリケーションをロードしたときに定義した FAX 検出アプリケーションの名前。
<i>keypad-character</i>	発呼側が電話のキーパッドを押すことにより、音声通話であることを示す単一の文字。これは、ファックス検出 IVR アプリケーションの default-voice and default-fax モードで設定された音声プロンプトに回答して入力されます。デフォルト値は1です。

コマンド デフォルト

1

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドは、Cisco AS5300 用に導入されました。
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5400 および Cisco AS5350 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドは、Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合され、Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745 に実装されました。Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 のサポートは、このリリースには含まれていません。
12.2(11)T	このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 でこのコマンドがサポートされました。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramvoice-dtmf コマンドに置き換えられました。

リリース	変更
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ファックス検出 IVR アプリケーションが **callapplicationvoicemode** コマンドで定義されているとおり、デフォルトの音声モード (**default-voice mode**) またはデフォルトのファックスモード (**default-fax mode**) で設定されている場合にのみ役立ちます。このコマンドで指定できる数字は1つだけで、その数字は **callapplicationvoicefax-dtmf** コマンドで指定された数字と異なる必要があります。両方を同じ数字に設定するという誤りを犯した場合、すぐには通知されません。このエラーを見つけるには、**debugvoipvrscript** コマンドを使用してデバッグを開始し、失敗した呼び出しをいくつか観察する必要があります。

このコマンドは、Cisco IOS ヘルプではサポートされていません。

callapplicationvoicefax_detectvoice-dtmf コマンドと疑問符 (?) を入力しても、Cisco IOS ヘルプには疑問符の代わりに有効なエントリのリストが表示されません。

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice voice-dtmf
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param voice-dtmf
```

次の例では、音声通話を示すために数字 2 のデュアルトーンマルチ周波数 (DTMF) を選択します。

```
call application voice fax_detect script_url
call application voice fax_detect voice-dtmf 2
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	指定された IVR アプリケーションを TFTP サーバからルーターにロードし、ルーター上で認識されるアプリケーション名を付けます。
callapplicationvoiceaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるように、ファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
callapplicationvoicefax-dtmf	指定された数字を認識してファックス呼び出しを示すように、ファックス検出 IVR アプリケーションを構成します。
callapplicationvoicemode	ファックス検出 IVR アプリケーションを 4 つのモードのいずれかで動作するように構成します。

コマンド	説明
callapplicationvoiceprompt	指定された音声ファイルをユーザープロンプトとして使用するようファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
paramvoice-dtmf	ファックス検出 IVR アプリケーションに、音声コールであることを示す指定された番号を認識させるよう指示します。

call application voice warning-time



- (注) Cisco IOS リリース 12.3(14)T から、**callapplicationvoicewarning-time** コマンドは **paramwarning-time** コマンドに置き換えられました。詳細については、**paramwarning-time** コマンドを参照してください。

許可された通話時間が経過する前にユーザが受信する警告の秒数を定義するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **callapplicationvoicewarning-time** コマンドを使用します。設定した警告期間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

callapplication 音声アプリケーション名警告時間秒

nocallapplication 音声アプリケーション名警告時間秒

構文の説明

アプリケーション名	警告時間パラメータが渡されるアプリケーションの名前。
秒	許容発信時間に達するまでの警告時間 (秒) です。範囲は 10 から 600 です。この引数に既定値はありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco AS5300 で導入されました。
12.1(5)T	このコマンドが Cisco AS5800 に実装されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に実装されました。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(4)XM	このコマンドは Cisco 1751 に実装されました。他の Cisco プラットフォームのサポートはこのリリースには含まれていません。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに実装されました。

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドは、このリリースで Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 に実装されました。
12.3(14)T	このコマンドは、 paramwarning-time コマンドに置き換えられました。
12.4(24)T	このコマンドは変更されました。新しい CLI への自動変換は、明示的なエラーメッセージに置き換えられます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、使用されているツールコマンド言語 (Tcl) スクリプトに応じて音声自動応答 (IVR) を設定する場合や、IVR 関連機能 (デビットカードなど) を設定する場合に使用します。指定されたアプリケーションの許可された通話時間が期限切れになる前の警告期間の秒数を定義し、その情報を指定されたアプリケーションに渡します。

以下の表には、Tcl スクリプト名と、各 Tcl スクリプトに必要な対応するコマンドがリストされています。

表 8: Tcl スクリプトとコマンド

Tcl スクリプト名	説明	設定するコマンド
app_libretto_onramp9.tcl	プロンプトユーザ、自動番号識別 (ANI)、ダイヤル番号識別サービス (DNIS)、ゲートウェイ ID、リダイヤラ ID、およびリダイヤラ DNIS を使用して、アカウントと個人識別番号 (PIN) を認証します。	None
app_libretto_offramp5.tcl	エンベロープ送信元、エンベロープ送信先、ゲートウェイ ID、および x アカウント ID を使用して、アカウントと PIN を認証します。	None
clid_4digits_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。アカウント番号とパスワードに許可される桁数は、コマンドラインインターフェイス (CLI) を通じて設定できます。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数も CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoiceuid-length 範囲は 1~20 です。デフォルトは 10 です。 callapplicationvoicepin-length 範囲は 0~10 です。デフォルトは 4 です。 callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_authen_col_npw_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と NULL を使用して、それぞれアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。

Tcl スクリプト名	説明	設定するコマンド
clid_authen_collect_cli.tcl	このスクリプトは、ANI と DNIS を使用してアカウント番号と PIN を認証します。認証が失敗した場合、スクリプトは発信者に再試行を許可します。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN は別々に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_3_cli.tcl	このスクリプトは、アカウント番号と PIN にそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証が失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
clid_col_npw_npw_cli.tcl	このスクリプトは、アカウントと PIN にそれぞれ ANI と NULL を使用して認証します。認証に失敗した場合、発信者は再試行できます。再試行回数は CLI を通じて設定されます。口座番号と PIN が一緒に収集されます。	callapplicationvoicereetry-count 範囲は 1~5 です。デフォルトは 3 です。
fax_rollover_on_busy.tcl	宛先の FAX 回線がビジー状態の場合に、オンランプ T.38 FAX から T.37 FAX へのロールオーバーに使用されます。	voicehuntuser-busy

例

Cisco IOS リリース 12.4(24)T から、ユーザに代替コマンド オプションを指示する次の警告メッセージが表示されます。

```
Router(config)# call application voice param warning-time
```

```
Warning: This command has been deprecated. Please use the following:
param warning-time
```

次の例は、「sample」という名前のアプリケーションに 30 秒の警告時間を設定する方法を示しています。

```
Router(config)# call application voice sample warning-time 30
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicelanguage	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの言語を指定し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceload	指定された Tcl スクリプトをリロードします。
callapplicationvoicelocation	アプリケーションに使用する名前を指定し、このアプリケーションで使用する適切な IVR スクリプトの場所を示します。
callapplicationvoicopin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。

コマンド	説明
callapplicationvoiceredirect-number	指定されたアプリケーションの通話を転送する電話番号を指定します。
call applicationvoicere retry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
callapplicationvoiceset-location	指定されたアプリケーションのオーディオファイルの場所、言語、カテゴリを定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
callapplicationvoiceuid-length	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、その情報をアプリケーションに渡します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

call-block (ダイヤルピア)

着信コールのブロックを有効にするには、ダイヤルピア設定モードで **call-block** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

コールブロック {切断原因着信 {通話拒否 | 無効な番号 | 未割り当て番号 | ユーザ話し中} | 翻訳プロファイル着信 *name*}

no コールブロック {切断原因着信 {通話拒否 | 無効な番号 | 未割り当て番号 | ユーザ話し中} | 翻訳プロファイル着信 *name*}

構文の説明		
切断原因着信		着信コールの切断原因を関連付けます。
通話拒否		着信番号変換中に通話をブロックする理由として通話拒否を指定します。
無効な番号		着信通話の番号変換中に、コールをブロックする理由として無効な番号を指定します。
未割り当て番号		着信通話の番号変換中に、コールをブロックする理由として未割り当ての番号を指定します。
user-busy		着信通話の番号変換中に通話をブロックする原因としてビジーを指定します。
translation-profileincoming		着信コールの翻訳プロファイルに関連付けます。
名前		翻訳プロファイルの名前。

コマンド デフォルト 切断原因: サービスなし (コールブロック翻訳プロファイルの定義後)、変換プロファイル: デフォルトの動作または値なし

コマンド モード
ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン いずれかのコール番号 (発信、着信、またはリダイレクト) が着信コールブロック変換プロファイルの拒否変換ルールと一致する場合、ゲートウェイからの着信コールをブロックできません。

着信コール番号変換中にコールがブロックされた場合、原因値がコールの発信元に返されません。

このコマンドは、POTS、VoIP、VoFR、および VoATM ダイヤルピア構成でサポートされます。VoATM の場合、ATM アダプテーション レイヤ 5 (AAL5) コールのみがサポートされます。

通話をブロックできるのは着信方向のみです。音声ゲートウェイの観点から見ると、着信方向は次のいずれかになります。

- ゲートウェイの音声ポートに直接接続された電話機器からゲートウェイ自体に着信する
- ピアゲートウェイからの Voice over X (VoX) 通話による着信

着信コールのブロックを設定するには、**reject** キーワードを含む変換ルールを定義します。次に例を示します。

```
voice translation-rule 1
  rule 1 reject /408252*/
```

次のような着信番号、発信番号、またはリダイレクトされた着信番号の変換プロファイルにルールを適用します。

```
voice translation profile call_block_profile
  translate calling 1
```

ダイヤルピア定義内に変換プロファイルを含めます。次に例を示します。

```
dial-peer voice 111 pots
  call-block translation-profile incoming call_block_profile
  call-block disconnect-cause incoming invalid_number
```

この例では、ゲートウェイは、着信ダイヤルピア 111 に一致し、発信番号が 408252 で始まるすべての時分割多重 (TDM) 通話をブロックします。また、ゲートウェイは通話の発信元に切断理由「無効な番号」を返します。(その他の切断原因も割り当てられます: 未割り当て番号、話中、または通話拒否など)。

例

次の例では、着信呼に使用する変換プロファイル「example」を割り当て、ブロックされたコールの原因としてメッセージ「invalid number」を返します。

```
Router(config)# dial-peer voice 5 pots
Router(config-dial-peer)# call-block translation-profile incoming example
Router(config-dial-peer)# call-block disconnect-cause incoming invalid-number
```

コールブロックのシナリオとしては、次の 2 つが考えられます。

シナリオ 1: PSTN/PBX/CO からの着信呼をブロックする

着信拒否プロファイルを、着信が想定される音声ポートと関連付けられた POTS ダイヤルピアに設定します。着信コールが試行されると、CCAPI デバッグで、POTS ダイヤルピア 9 がテレフォニーコールレッグと一致していることがわかります。通話ブロックルールがチェックされ、スイッチにユーザ ビジーが返されます。

```
voice translation-rule 1
```

```

rule 1 reject /9193927582/ <<<<----- filter out calls from this CallerID
voice translation-profile reject_ANI
  translate calling 1
dial-peer voice 9 pots
  destination-pattern 9T
  direct-inward-dial
  port 1/0:23
  call-block translation-profile incoming reject_ANI
  call-block disconnect-cause incoming user-busy

```

シナリオ 2: 着信 VoX コールをローカル POTS リソースの使用からブロックする

着信 VoX 通話試行に一致する VoIP/VoATM/VoFR ダイヤルピアに拒否プロファイルを配置します。着信コールの試行が行われると、CCAPI デバッグで VoIP ダイヤルピア 7 が IP コールレグに一致していることがわかります。通話ブロックルールがチェックされ、スイッチにユーザ ビジーが返されます。

```

voice translation-rule 1
  rule 1 reject /9193927582/ <<<<----- filter out calls from this CallerID
voice translation-profile reject_ANI
  translate calling 1
dial-peer voice 7 voip
  destination-pattern 7T
  session target ipv4:A.B.C.D
  incoming called-number . <<<<----- force inbound IP call-leg match
  call-block translation-profile incoming reject_ANI
  call-block disconnect-cause incoming user-busy

```

関連コマンド

コマンド	説明
dial-peervoice	ダイヤルピア音声設定モードを開始します。
音声翻訳プロファイル	音声通話の翻訳プロファイルを定義します。
voicetranslation-rule	音声通話の変換ルールを定義します。

通話拒否

call-denial コマンドは、**callthresholdglobal** コマンドに置き換えられました。詳細については、**callthresholdglobal** コマンドを参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。